英語で返信を書き直す：用件・条件・確認の一言

講師用メモ・バージョン 2

6ページの原作教材です。第1ページは返信で相手が知りたいこと、文脈の11語句、第2ページは約110語の原作メールと条件付きの作例、第3ページは語句カードを動かす修正活動とやり取りです。カードの初期配置は正しい文順ではなく、zoneは空欄です。第4〜6ページの資料A〜CとC1〜C6は別の条件で行う課題です。自分の都合、相手が尋ねたこと、本文にない可否を分けます。唯一の文面を強制せず、意味の同じ自然な返信を認め、用件が伝わった点と形式上の修正を別に記録します。C6の両者の条件は同じ共有画面に見え、非公開情報を自動で隠す機能は前提にしません。早く来られないという条件を保ちながら返答を交わし、実際に合意したことを最後に書きます。音声・自動発話評価はありません。実際の授業での試用や英語教員による確認はまだ行っていません。

練習問題の解答はこの講師用メモに分けています。編集版であり、実際の授業での試用はまだ行っていません。

資料A: Read, reply, and check

C1. 資料Aから、場所・時間・持ち物を英語で整理してください。資料に書かれていないことを一つ区別し、それを確かめる英語の質問を一つ作ってください。

解答・確認の観点：Art room; Sunday,10–12; a pencil. Paper and colored pens are provided. 遅刻して参加できるかは不明。例：Can I join the workshop at ten thirty? 場所・時間など本文にある情報を未記載としない。自然な別の英語の整理・質問を認める。

C2. 資料Aに返事を書きます。あなたは参加したいのですが、10時30分より前には着けません。Alexへ、参加したいことと自分の条件を伝え、遅れて参加できるか尋ねる英語の返信を書いてください。許可を得たことにはしません。

解答・確認の観点：例：Hi Alex, I would like to join the poster workshop on Sunday, but I cannot arrive before ten thirty. Can I join at that time? Thanks. 未記載の遅刻参加を可能と断定せず、希望・制約・質問が伝わる別表現を認める。

資料B: Read, reply, and check

C3. 資料Bを読み、Renとして英語で返事を書いてください。あなたは4時20分に着くことができ、5時までに出る必要があります。二つの候補から使える場所と時間を選び、理由と持参する物を伝えてください。

解答・確認の観点：場所と時刻の例は二つあります。①music roomの4時20分〜5時、②study roomの4時30分〜5時。資料の4〜5時は音楽室が空いている時間帯で、4時ちょうどに開始する約束ではありません。例：Hi Mika, I can arrive at four twenty, so the music room from four twenty to five works for me. I will bring the picture cards. またはstudy roomを提案して到着の条件を説明する返信。MikaもRenも5時までなので5時30分までと勝手に延ばさず、場所・使用時間・理由・持参物が伝わる自然な別表現を認めます。

C4. 資料Bに対し、Renは「I can go there then. I will bring it.」と書きました。使うのは4時30分から5時までのstudy room、持参するのはpicture cardsだという内容を保ち、Mikaが確認しやすい返信に書き直してください。直した理由も説明してください。

解答・確認の観点：例：I can meet you in the study room from four thirty to five. I will bring the picture cards. there/then/itを具体化し、場所・時間・持ち物を明確にする。Renの新しい事情や許可を作らない。自然な別表現を認める。

資料C: Read, reply, and check

C5. 資料Cに、Saraとして英語で返事を書いてください。あなたは1時30分から2時30分まで参加でき、Sea Gardenという本を持って行きます。Leoが尋ねたことに答え、確認のため集合場所も伝えてください。

解答・確認の観点：例：Hi Leo, I can stay for the whole hour, from one thirty to two thirty on Saturday. I will bring Sea Garden. I will meet you at the library front desk. 本の題名・参加条件・場所が伝わる自然な別表現を認める。金曜より前に返答する想定だが、新しい締切や場所を作らない。

C6. 資料Cの後、Leoが「Could you come at one fifteen to help set up?」と尋ねました。あなたは1時30分より前には来られません。Leoへの返答と、それを受けたLeoの次の一言を、役割を交代して話してください。条件を変える場合は相手に確かめ、最後に合意した時刻と場所を英語で書いてください。

解答・確認の観点：例Sara：Sorry, I cannot arrive before one thirty. Can I still join the book table then? Leo：Yes, that is fine. Please meet me at the library front desk at one thirty. 最終記録：We will meet at the library front desk at one thirty on Saturday. 例は会話の一案で、新しい返答を学習者同士で作る。元資料だけで早い到着が可能と断定せず、相手の返答を実際に聞いた上で合意を記録する。

利用と出典表示

© 2026 MomentDesk / PRYADKO DANILA. 無料・有料の授業で利用し、自分の授業用に変更できます。共有時はMomentDeskの出典表示を残してください。テンプレートの転売や、自作としての再公開はできません。

文部科学省・中学校学習指導要領解説 外国語編・五つの領域と文・文構造・文法事項（冊子17〜23、44〜47ページ） — https://www.mext.go.jp/content/20210531-mxt_kyoiku01-100002608_010.pdf#page=20

東京書籍2025年度NEW HORIZON中1年間指導計画（疑問文・否定文・身近なやり取りの配置例。全国共通の順序ではない） — https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/text/chu/eigo/download/documents/R7eigo_saian_1_2502.pdf?20250130=

British Council LearnEnglish: Question forms — section: Questions in the present simple and past simple — https://learnenglish.britishcouncil.org/free-resources/grammar/a1-a2/question-forms